

4歳児



4 歳児 仲間の中で自分らしさを発揮して

発達の特徴

子どもたちは「こうありたい」「もっとこうしてみたい」と願望や理想をもつようになりますが「やりたいけれどうまくいかない」と現実とのギャップに悩み、それを乗り越えていくことで自分への自信をつけていく時期です。

生活の仕方や必要性が分かると、進んで身の回りのことをしたり、苦手なものを食べてみようとしたりして、自分の体と対話する力がついてくるのもこの時期の育ちです。理由を尋ねられると「それはな…」と自分の頭の中で考えて応えられるようになります。また、目に見えないこと（体の不調など）を伝えられるようにもなります。

運動面では、イメージした通りに自分の体を動かしたり、ケンケンのように「～しながら～する」という2つの動作をコントロールしたりするようにもなります。

友達と楽しいことを共有し、互いに憧れの気持ちをもったり、対等にぶつかり合ったり世話を焼いたりして、友達の思いにも気付きます。最初は自分の主張が譲れずトラブルも起きますが、「友達と一緒に～したい」と自分の目的をつかむことで、譲ったり我慢したりできるようになってきます。

また、知的な好奇心も旺盛になり、「こうかな?」「そうなんだ」と身近な自然に興味をもち、疑問に思ったことを尋ねたり試したりするようになります。

大切にしたい保育の課題

- 「やってみようかな」「もっとやってみたい」などと子ども自身が考え、迷い、決めていくというプロセスを経て、一人一人の個性（心）の原型がつけられていきます。「～をしたから、～しよう」と、日々の生活を自分で決める経験を重ね、やがては「～するから～しよう」と自分で考えて行動できるよう支えていきましょう。
- 毎日の生活に見通しがもてるよう、一日の始まりや終わりの時間はクラスの友達と一緒に過ごします。友達と共有できる目的があったり、自分で決められる機会があったりすることが大切です。
- 体を動かす楽しさをたっぷり味わい、状況に合わせて体を操作する力をつけましょう。少し難しいことにも挑戦する楽しさを味わえるような遊具や用具、音楽を聞きながら自然と体が動かせるような環境づくりなどを工夫します。
- 砂、水、泥や自然物、空き箱や製作材料など、様々なものに自分らしく関わり、それを周りの友達から認められることで自己肯定感が高まります。繰り返し試したり、失敗してもやり直ししたりする経験を認め、子どもの意欲や手先の巧緻性を高めていくことが大切です。
- 楽しさや喜び、疑問、達成感などを友達と一緒に味わうことで、仲間としての意識が高まります。イメージや目的を共有する遊びは、自分を発揮する力を育みます。

「わくわく・のびのび・いきいき」育つために
—発達をふまえた関わり方—

いろいろな考えを認めよう

かっこよく鉄棒で前回りがしたいけれどできないかもしれないので、鉄棒はしたくないA児。「がんばれ」とただ励ますのではなく、杵にとらわれない技を考えるなど、新たな価値観を子どもたちと共につくり出します。チャレンジする素晴らしさや個性が光る面白さを感じることで抵抗感を乗り越え、楽しい遊びに変えていけるようにしましょう。



納得して自分で決められるようにしよう

保育者がいくら言っても、入室後なかなかうがいをしようとしなないB児。「～しようね」と一方的に伝えるのではなく、なぜ必要なのかを子どもたちと話し合ってみましょう。

「ガラガラうがいをすると、風邪バイ菌が喉から出ていくんだよ」と、友達から聞くと納得し、「風邪をひいたら大好きな〇〇園に来られなくなるから、面倒だけれどうがいをしよう」などと自分で決められます。



その子らしさを大切にしよう

砂場で大きな山をつくったり、ごっこ遊びを楽しんだり、友達と一緒に進める楽しさを感じる時期です。しかし一人でじっくり考え、試す時間も必要です。一人で遊びながらも友達の遊びを気に掛け、興味や関心を高めていきます。一方で仲のよい友達とけんかをするこも増えてきます。子どもたちが対等な関係で遊んでいるか、保育者が丁寧に姿を見つめ、さり気なくつないだり、思いの整理をしたりすることも時には必要です。



期／月		4歳児 I期（4月～5月）
期の特徴		好きな遊びや先生との触れ合いを通して、新しい環境に慣れ親しむ時期
子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・進級を喜び、張り切って行動したり、環境の変化に緊張したり不安な気持ちになったりするなど、様々な姿が見られる。 ・安心できる保育者との関わりの中で、自分のしたい遊びを見付けたり気の合う友達と遊んだりして、徐々に自分の思いを出し、安定していく姿が見られる。 ・遊びの持続時間は短い、いろいろなことに興味をもちやってみようとする気持ちがある。 ・保育者に受け止めてもらうことで安心し、「見て見て！」と自分のしたことや遊びを見てほしい気持ちを表す。
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・先生や友達に親しみをもち、喜んで登園する。 ・生活の仕方が分かり、自分でできることは自分でしようとする。 ・自分の好きな遊びを見付けたり、先生や気の合う友達と興味のある遊びを一緒に楽しんだりする。
経験する内容	健康	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい生活に慣れ、先生や友達に親しみをもち安心して過ごす。 ・生活の仕方や身の回りの始末の仕方を確かめながら、自分でできることは自分でしようとする。
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・走ったり、跳んだりして思い切り体を動かして遊ぶ。 ・食べることを期待して食事の準備をしたり、次の活動の見通しをもって片付けをしたりする。
	環境	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな遊具や用具の遊び方や扱い方を知り、園での約束を守って遊ぼうとする。 ・自分の好きな遊びや場所を見付けて楽しんで遊ぶ。 ・友達のしていることを見て同じようにしたり、同じ物を使って遊んだりする。 ・春の自然の中で遊んだり、身近な動植物に触れたりして、興味や関心をもつ。 ・砂や泥などの素材に触れ、感触を楽しむ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・夏野菜や花の種を植え、生長を楽しみにして世話をする。 ・自分の思いや要求を、自分なりの方法(表情・身振り・言葉など)で伝えようとする。 ・先生や友達の話に興味や親しみをもち聞く。
	表現	<ul style="list-style-type: none"> ・先生や友達と一緒に歌を歌ったり、手遊びをしたりして共に過ごす楽しさを感じる。 ・いろいろな素材を使って表現遊びをしたり、自由にかいたりつくったりすることを楽しむ。 ・先生に絵本や紙芝居を読んでもらうことに心地よさを感じる。

<保育のポイント>

☆進級や新しい生活が始まることで、子どもは期待や不安など様々な気持ちを抱いている。一人一人が安心して園生活を過ごせるように、遊び方や思いの出し方の違いなどにも配慮し、一人一人の思いを受け止め丁寧に寄り添い、信頼関係を築いていく。

●自分で好きな遊びを見付けて楽しめるように、遊具や用具は遊びに応じて一人一人が満足できる数を用意しておく。一人一人の子どもの姿の読み取りを深め、自分から遊び出せるような環境をつくり、保育者がモデルとなって遊ぶ姿を見せることで、“やってみたいな”“あんなふうにしたらいいの？”と子どもの心を動かし、気持ちを引き出していけるようにする。

<家庭との連携>

- ・1年間のクラスの方針を知らせ、保育の中で大切にしたいことを伝える。
- ・園での子どもの様子を伝えたり家庭での様子を聞いたりして、伝え合う機会を多くもつようにする。
- ・この時期は不安定な姿であっても、徐々に友達とのつながりができクラスとしてまとまりを見せていくようになることなど、子どもの育ちの見通しを伝えたり、子どもたちの生活や遊びの様子をクラスだよりや写真掲示、連絡帳などで分かりやすく伝えたりすることで、安心して園生活を見守ってもらえるようにする。

4歳児 1期

面白そう やってみようかな？！

4月頃は、皆手には同じようにスコップをもっていますが、遊び方は様々です。保育者が型抜きをして見せると、興味をもった子どもが真似をしていきますが、なかなかうまくいきません。保育者が「もっと砂を入れてみようか」「そ〜っとコップを上げてみるといいよ」と一人一人の様子に合わせて声を掛けると、子どもたちは何度も繰り返し返していました。

5月になると、泥の感触を楽しむ姿が見られます。自分で砂が入っている器に何度もスプーンで水をすくって混ぜて泥んこをつくっている子どもには、それが『コーヒー』や『カレーライス』に見えて楽しくなってきます。保育者にも「これはカレー！」「お茶もあるよ」とごちそうしてくれたり、「おいしいよ」「熱いからフーフーして」と言葉を添えてくれたりすることもあります。

隣には泥団子をつくっている友達もいます。互いにチラッと見て「あっ、あんなのをつくっているんだ…」と友達の様子を感じています。

【健康】

【自分の好きな遊びや場所を見つけて楽しんで遊ぶ】

使ったことのある道具や親しみのある遊びがあることで安心して遊ぶことができ、好きな場所や遊びが見付かっていきます。

【人間関係】

【友達の前で自分のしていることと同じようにしたり、同じものを使って遊んだりする】

保育者とのやり取りが嬉しかったり、保育者や友達の遊んでいる様子を見て、同じことをやってみようという気持ちが芽生えたりします。

【環境】

【砂や泥などの素材に触れ、感触を楽しむ】

身近な可塑性のある素材（砂、泥、水など）は、どの子どもにも分かりやすく取り組みやすいので、安心して遊び、その感触を楽しむことができます。



【言葉】

【自分の思いや要求を、自分なりの方法（表情・身振り・言葉など）で伝えようとする】

楽しい雰囲気、安心感や開放感を感じて遊び、「ぐにゅにゅ」「できた！」といった言葉が自然と出てきます。遊びながら「〇〇のつもり」と見立てる楽しさから「先生に伝えたい」という気持ちが湧いてきます。

【表現】

【砂や泥などの素材に触れ、感触を楽しむ】

素材に触れ、感触を楽しみながらできたことやつくったものを「川みたいになった」「カレーです」と見立てることを楽しんでいます。

【このコラムにおける保育のポイント】

- 当初は、保育者のそばにいと安心できるので、近くに集まってきます。同じ場所にも遊び方は一人一人違うのでどの子にも声を掛け、保育者が一緒に遊んでくれる存在だと感じられることが大切です。そばに立って様子を見ていても、自分も同じように遊んでいる気持ちになっていることもあります。子どもが自分から関わっていただけるまで待つことが必要です。
- 遊びに必要な道具が“自分のもの”として用意されていることで安心して遊ぶことができます。保育者は子どものものしていることに丁寧に関わり、「〇〇しているんだね」などと話し掛けていくことで、周りの子どもたちも友達の様子を見るようになっていきます。“友達の存在に気付いてほしい”という保育者の願いを込めて、一人一人の楽しんでいることを感じ取り、それを言葉にしていきましょう。

期／月		4歳児 Ⅱ期（6月～8月）
期の特徴		いろいろな遊びに興味をもち、先生や友達と触れ合うことを楽しむ時期
子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・自分のしたい遊びを楽しむ中で、自分が見付けたことやできたことを保育者や周りにいる友達に知らせようとする。 ・自分の思いが言葉でうまく表現できず、いざこざが起こったり、泣いたり怒ったりすることがよくある。 ・先生や友達と一緒に砂、土、泥、水などの素材に触れ感触を楽しんだり、全身でダイナミックに遊ぶことを楽しんだりしている。
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・先生や友達と触れ合いながら楽しく遊ぶ。 ・いろいろな素材の感触や様子に興味をもち、繰り返し試して遊ぶ。 ・自分のしたい遊びを見付けて遊ぶ。
経験する内容	健康	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の流れや片付け方が分かり、自分でしようとする。 ・体を動かす面白さや全身を使って遊ぶ心地よさを感じる。 ・健康な生活に必要なことを知り、先生に促されたり、友達の様子を見たりして自分でしようとする。
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・体の仕組みに関心をもち、自分や友達の体を大切にしようとする。 ・同じ場にいる友達と同じことをしてみたり、一緒に遊んだりして、友達とのつながりを感じる。 ・気の合う友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。
	環境	<ul style="list-style-type: none"> ・園内外のいろいろな人と触れ合い、親しみを感じる。 ・伝えたい思いを先生に受け止めてもらい、安心感や満足感を味わう。 ・可塑性のある素材の感触や発見を楽しみ、変化していく様子に興味をもち、繰り返し遊ぶ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・水遊びやプール遊びなどに親しみ、水の心地よさを全身で感じる。 ・栽培物の生長を楽しみに世話をしたり、収穫を喜んだりして食べることを楽しむ。 ・身近な生き物に親しみをもち、探したり触れたりすることを楽しむ。 ・自分が感じたことやできたことなどを言葉にして表し、相手に伝えることを喜ぶ。 ・絵本や紙芝居を見たり聞いたりして、物語や言葉の面白さにふれる。
	表現	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな素材に関わり自分なりの方法でかいたりつくったりすることを楽しむ。 ・曲に合わせて歌ったり体を動かしたり楽器を鳴らしたりすることを楽しむ。 ・自分なりに見立てて遊ぶことを楽しむ。

<保育のポイント>

- ☆水分補給の大切さなど、夏の生活の仕方を知らせたり環境を整えたりして、健康に過ごせるようにする。
- いろいろな素材に触れて遊ぶことで、気持ちが開放されたり、五感を通して様々なことを感じたりするので、十分に遊べる材料や用具の数を準備し、必要に応じて補ったり減らしたりする。
- 友達が遊んでいる様子を感じられるように、遊びの場の距離間や位置を考えたり、いつ仲間入りしても遊び方が分かり、同じことを楽しめるような環境にしたりする。
- ☆●「一緒に楽しい」という気持ちを保育者も同じ場で共感し、同じ場にいる子どもたちがつながる楽しい雰囲気をつくっていく。
- ☆●その子の遊びの過程を具体的に認め、認められる喜び（自己肯定感）や遊び込む面白さを味わう経験につないでいく。

<家庭との連携>

- ・暑さや、水遊びなどの活動により疲れが出やすい時期なので、体調管理において家庭と連携する。

クラスの友達と一緒に育てたピーマンが収穫の時期を迎えました。みんなを代表して収穫に出掛けた当番グループの子どもたち。「どんな匂いするかな」保育者の問い掛けに仲間も固唾をのんで見守ります。「すごい、ピーマンの匂いする！」その後、一人一人が自分の収穫したピーマンの匂いを確かめ、クラスで待っている友達にも収穫したピーマンと、その匂いを届けにいきました。

【健康】

【生活の流れや片付け方が分かり、自分でしようとする】

クラスの友達が昼食の準備をしている間に、収穫を任せられた当番グループの子どもたち。「友達が待っている」「もうすぐお昼の時間」という生活の見通しをもつことができているので、早く届けにいかうと考えています。

【人間関係】

【同じ場にいる友達と同じことをしてみたり、一緒に遊んだりして、友達とのつながりを感じる】

【気の合う友達と一緒に遊ぶことを楽しむ】

友達が匂いを嗅ぐ様子を見ていた子どもたち。自分が匂いを嗅いだ後には、クラスの友達の鼻先にもピーマンを当てて、経験を共有し、つながりを感じようとしています。

【環境】

【栽培物の生長を楽しみに世話をしたり、収穫を喜んだりして食べることを楽しむ】

自分たちで育てた野菜だからこそ、興味津々。保育者の言葉をきっかけに、匂いにも興味が湧き、好奇心や収穫の喜びが深まります。収穫した野菜を家庭や園で食べることは、心に残る楽しい経験です。



【言葉】

【自分が感じたことやできたことなどを言葉にして表し、相手に伝わることを喜び】

最初に収穫した A 児。友達の注目を浴びて一言「ピーマンのにおいだ！」簡単な表現ですが、感動が友達に伝わり、みんなが匂いを嗅ぎにきたことがとても嬉しい様子です。

【表現】

【いろいろな素材に関わり自分なりの方法でかいたりつくったりすることを楽しむ】

【表現】に直接関わる活動でなくても、匂いや手触りなどの特性を体感する経験が、表現活動の基盤となります。五感を刺激する感動体験が、表現する楽しさにつながります。

【このコラムにおける保育のポイント】

- 食育活動は“つくった”“食べた”というだけの活動に終わらないよう、保育者が活動に寄せる願いを投げ掛けることで、「収穫の喜び」「科学的な興味」「友達への関心」「伝え合い」「クラスの仲間意識」「その後の活動への発展」など、子どもの学びにつながる経験となります。活動を「どのように進めるか」ではなく、「どんな経験を深め、広げるのか」を意識することが、保育を豊かにします。
- 夏野菜は栽培期間が短いので、自分たちで栽培し、収穫する喜びを実感することができます。収穫した野菜を友達や家族で食することで、その喜びが更に深まります。夏野菜の栽培をきっかけに年間を通して栽培や収穫の喜びを味わえるよう計画し、自然との関わり、季節感のある生活を豊かに展開しましょう。

期／月		4歳児 Ⅲ期（9月～10月）
期の特徴		自分なりの目的をもって遊び、友達との関わりを楽しむ時期
子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> 夏の出来事や自分が経験したことを友達や保育者に喜んで話す。 友達がしていることに興味をもちやってみようとしたり、自分のしたい遊びに友達を誘ったりする。 夏の生活からの変化もあり、生活リズムが不安定になっていたり、自分の身の回りのことを丁寧にできなくなっていたりする様子も見られる。 体を動かすことを喜び、いろいろな運動遊びに興味をもち、自分もやってみようとしたり、繰り返し取り組んだりする。 運動会の取組などを通して5歳児への憧れをもち真似たり、新しいことに挑戦したりする姿が多くなる。
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> いろいろな運動遊びに取り組み、体を動かして遊ぶ楽しさを感じる。 自分のしたい遊びを見付け、自分なりに試したり表現したりする。 気の合う友達と一緒に遊んだり、みんなで活動したりする楽しさを味わう。
経験する内容	健康	<ul style="list-style-type: none"> 気候や活動に応じ、自分で気付いて水分補給や衣服調節をする。 いろいろな運動遊具や運動遊びに興味をもち、跳ぶ、投げる、走るなどの動きを楽しむ。
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> 少し先の行事などに見通しをもち、期待して過ごす。 みんな楽しく遊ぶために自分なりに考えて行動したり、約束やルールを守ろうとしたりする。 友達のしていることに興味をもち、クラスの人々と一緒にやってみようとする。
	環境	<ul style="list-style-type: none"> 5歳児に憧れの気持ちをもち、同じようにやってみようとする。 自分のものや共同の遊具を大切に、みんなですっきり片付けたりする。 秋の虫や草花などに関心をもって集めたり、自分なりの発見を喜んだりし、遊びに取り入れる。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いを相手に伝えようとしたり、相手にも思いがあることに気付いたりする。 自分が経験したことや感じたことを言葉で伝えたり、友達の話に興味をもって聞こうとしたりする。
	表現	<ul style="list-style-type: none"> みんなと一緒に音楽に合わせて踊ったり、自分なりのイメージをもっていろいろな動きを表現したりする楽しさを感じる。 遊びに必要なものを自分なりに表現したり工夫したりしながらつくることを楽しむ。

<保育のポイント>

- 友達と一緒に存分に体を動かす機会をもち、その楽しさを味わえるようにする。また、同じものや場でつながっている嬉しさ、喜びを共感的に受け止め、友達の存在を感じられるようにする。
- 子どもが見立てたり、自分で手を加えたりできるような用具、道具、素材を用意し、必要に応じて適切な使い方を知らせていく。
- ☆やりたいことに向かって自分なりのやり方で取り組む姿を支えながら、自分がしたことへの手応えや自信をもてるようにする。また、子ども同士が認め合える仲間づくりを支える。

<家庭との連携>

- ・この期の始めは夏の生活からの変化もあるため、夏季休業中の生活記録や連絡ノートなどを通して保護者と話をする機会を多くもち連携を図る。
- ・運動会の取組などでは、子どもの姿を“できる”か“できない”の表面的な出来栄で捉えるのではなく、子どもの気持ちの揺れや、内面の成長に共感してもらえるように伝え方の工夫をする。

4歳児 Ⅲ期

見て見て、こんなことができるよ 一緒にしよう！

運動会に向けての鉄棒遊び。友達の姿を見て、やりたい気持ちが膨らみ列に並びます。でも自分の順番がくると鉄棒を前に「できない！（お腹が当たったら）痛い」と鉄棒に跳びつくことさえも躊躇してしまいました。もう一度並ぶ間に、同じようにお腹を痛がったり、かっこよく跳びつき“とんぼ技”を見せたりする友達をじっと見ています。「お腹が痛いときはこうやったらいいよ」と、コツを教えてくれる友達の言葉に背中を押され、挑戦してみると「できた！痛くない」と実感。その後、様々な技を自分たちで生み出し、認め合い、できるようになることで、さらに鉄棒の遊びに取り組むとともに自信を膨らませる姿が見られました。

【健康】【環境】

【いろいろな運動遊具や運動遊びに興味をもち、跳ぶ、投げる、走るなどの動きを楽しむ】

いろいろな運動遊びや運動遊具に興味をもち、繰り返し取り組む中で、楽しみながら様々な体の動きを身に付けていきます。また、安全な扱いについて、体験を通して知ること、安全に楽しく遊べるようになります。やってみたくなる環境や援助の工夫を重ねることで、それぞれの子どもが自分のタイミングで運動遊びに関わる機会が生まれ、体を動かして遊ぶ楽しさを感じることができま



【人間関係】

【友達の前でやってみようとする】

仲のよい友達の姿を見て憧れ、「面白そう」「やってみようかな」とやってみようとする気持ちを膨らませ、自分の遊びにも取り入れていきます。また、苦手と感じていることも、友達の存在や言葉が、気持ちの後押しをしてくれます。ちょっとした発見や工夫を、面白がり認め合うことで、自信をつけていきます。

【言葉】

【自分が経験したことや感じたことを言葉で伝えたり、友達の話に興味をもって聞こうとしたりする】

「お腹が痛い」と言った友達の言葉を受け止め、自分の経験からコツを伝え、遊びの伝え合いが生まれます。様々な場面で「聞く経験」を重ねることが、相手の気持ちや考えを理解していく力につながります。また、自分の話を十分に聞いてもらえることが人の話を聞く態度にもつながります。

【表現】

【みんなで一緒に音楽に合わせて踊ったり、自分なりのイメージをもっていろいろな動きを表現したりする楽しさを感じる】

体をピンと伸ばし「とんぼ技」と名付けます。様々な体の動きに合わせて、自分の経験や見たことなどからイメージし、命名します。その技の名前がクラスの仲間の共有の文化となることで、そこに関わった子どもの手応えとなります。

【このコラムにおける保育のポイント】

- 何気なくした動きや技や発した言葉を、保育者が具体的に友達の中で認めることで、「自分ってすごい」と自分のしていることに価値を見付け、それが自信につながっていきます。自分の名付けた「〇〇技」を友達がしてくれることが嬉しい子どもたち。保育者だけでなく友達に認めてもらえるような環境を設定することで、子どもたちの自己肯定感が高まります。
- 「できるかな、できないかもしれない」と気持ちを揺らしながら乗り越えるための時間が大切です。また、友達の姿をじっくり見るという機会も必要です。友達の力も借りながら、葛藤を越えて自ら動き出すタイミングを逃さず誘い掛けたいものです。

期／月		4歳児 IV期（11月～12月）
期の特徴		自分の目的やイメージをもって、友達と一緒に遊ぶことが楽しい時期
子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な生活習慣はほぼ確立する一方で、一度身に付いた習慣がおろそかになったり、そのことに自分なりの理由をつけて話したりする姿もみられる。 ・ 気の合う友達ができ、友達と同じような思いやイメージをもったり、役になりきって遊んだりする姿がある。 ・ 自分の思いを友達に出せるようになったことで、いざこざが起こることがある。思いを通したい気持ちがある一方で、仲良く遊びたいという思いもあり、気持ちの狭間で葛藤する。 ・ かいたりつくったりすることを喜び、自分なりのイメージで思い思いに表現しようとする。 ・ 用具や遊具に慣れ、遊びに取り入れたり、自分なりの遊び方を考え出したりする。
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・ 思いやイメージをいろいろな方法で表現する楽しさを味わう。 ・ 自分の目的をもって友達と一緒に遊びを進める楽しさを味わう。
経験する内容	健康	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手洗いうがいなど、気候の変化に合わせて健康な生活に必要なことを知り、守ろうとする。
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 戸外で体を動かして遊び、運動遊びでは少し難しいことに取り組んだり、自分なりのやり方を見付けたりして繰り返し楽しむ。 ・ 友達の言動やイメージに刺激を受けたり応じたりしながら遊ぶ。 ・ 異年齢の友達や小学生、地域の人たちとの触れ合いを楽しむ。
	環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ ルールのある遊びを通して、みんなで遊ぶ楽しさを味わう。 ・ いろいろな素材や用具を使い、自分なりに試したり工夫したりして遊ぶ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 秋野菜の収穫の喜びを味わったり、食べ物に関心をもったりする。 ・ 秋の自然の変化に気付いたり、自然物で遊んだりすることを楽しむ。 ・ 友達との遊びの中で自分の思いを相手に伝えたり、友達の思いに気付いたりする。
	表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ ごっこ遊びなどで役になりきって遊ぶことを楽しむ。 ・ 友達と一緒に歌ったり、楽器を鳴らしたりすることを楽しむ。 ・ 自分のイメージしたものをいろいろな材料や用具を使って表現する。

<保育のポイント>

- ☆●悔しさを出したり、我慢したり、一人一人が集団の中で、自分の気持ちと葛藤する貴重な体験をしていく時期である。気持ちを受け止め共感したり、友達の気持ちにも気付けるように関わったりしながら、心の揺れを見守っていく。また、個々の課題や成長を細やかに見ていくように心掛ける。
- ☆子どもによっては活動に参加しにくい子もいるが、友達の様子を見ることで気持ちを膨らませたり、家で試していたりすることもある。友達と一緒に活動することを強要せずに、自ら思いをもって動き出していけるように支えていく。
- ☆●様々な表現方法の中で、子どもたちは、見栄えや“よいか、よくないか”ということにこだわりがちになるので、一人一人のよさ（個性）に気付けるような言葉掛けに配慮し、友達同士で相手のよさを認め合えるような機会を意図的にもつようにする。

<家庭との連携>

- ・ 友達の存在を意識し、関わりの中で気持ちが揺れたり、葛藤したりすることが、自尊心や自制心の育ちへとつながることを知らせていく。
- ・ 感染症が流行しやすい時期であるため、手洗いうがいなどの励行を勧め、予防に努めてもらう。また、無理をしないで、早めの休養を心掛けてもらう。

馴染みのある音楽に合わせて楽器を鳴らして遊んでいる4人の子どもたちに保育者はステージをつくりました。「あっ！コンサートしよう」とA児が言うと「うん。みんなで一緒にしよう」とB児が応えます。応答性のある仲間関係が心地よく感じる時期です。以前に年長児のコンサートでお客さんに招待されたこともあり、コンサートという同じイメージがもてたようです。4人が同じ楽器を手に「コンサートが始まります」と言うと、近くで遊んでいた友達が「お客さんになってあげる」と来てくれました。「椅子がいる！」と4人でお客さん用の椅子を並べ、コンサートが始まりました。

【健康】

【ごっこ遊びなどで役になりきって遊ぶことを楽しむ】

5歳児のコンサートにお客さんとして招かれたことを思い出して、お客さんのために椅子を準備したり、楽器の鳴らし方を考えたりしてコンサートごっこが楽しくなるように工夫しています。

【人間関係】

【友達の言動やイメージに刺激を受けたり応じたりしながら遊ぶ】

お客さんがいることで、友達（仲間）とのつながりを意識することができ、みんなで歌ったり楽器を鳴らしたりすることが、より楽しくなっています。

【環境】

【いろいろな素材や用具を使い、自分なりに試したり工夫したりして遊ぶ】

保育者がステージをつくったことで、コンサートのイメージをもつことができました。今までの経験を生かしながら、「こんなことをしよう」と意欲的に遊びに取り組んでいます。



【言葉】

【友達との遊びの中で自分の思いを相手に伝えたり、友達の思いに気付いたりする】

楽しかった共通の体験に加え、みんなが知っている歌や、身近に使い慣れた楽器があることでイメージを共有していくことができます。

また、「〇〇っていうことにしよう」など自分が考えたことや思いを言葉で伝えていけるようになっていきます。

【表現】

【友達と一緒に歌ったり、楽器を鳴らしたりすることを楽しむ】

楽器の鳴らし方は、思い思いの鳴らし方であったり、友達と同じ鳴らし方であったりと様々ですが、自分のしていることを友達や保育者に見せることで、嬉しい気持ちが表情に表れています。遊びに対する意欲や充実感につながっていきます。

【このコラムにおける保育のポイント】

- 保育者は一人一人の子どもが思いを出せているか、遊びの様子から感じ取っています。また、子ども同士の会話から「こんなことがしたいのかな？」と思いを巡らせ、場を整えたり遊びに必要な材料を準備したりすることで、子どもたちの遊びが広がっていきます。
- 遊びのイメージが子ども同士の言葉だけでは思いが伝わらないこともあるので、様子に合わせて保育者も仲間になって「これは〇〇っていうことだね」という言葉を添えていきます。
- 子どもが自分たちの力で実現できた喜びを味わったり、友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じたりしていけるように、保育者はさり気なく関わり、子どもの思いを大切にしながら、タイミングよく必要な支援を行っていきます。

期／月		4歳児 V期（1月～3月）
期の特徴		自分の思いを出し、友達のことを感じながら一緒に遊ぶ楽しさを感じる時期
子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・様々なことに興味をもって自分でやってみようとし、繰り返し楽しむ姿が見られる。 ・共通の言葉やものでつながったり、遊んでいるうちにイメージが膨らんだりして、友達と楽しさを共有する姿が見られる。 ・ルールのある遊びを楽しむようになり、遊びの状況に応じてどうすればよいか考えたり、自分なりに気持ちを調整したりする。 ・5歳児になることを意識し始め、張り切って生活する姿が見られる。
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりのめあてや見通しをもって生活し、いろいろな活動に進んで取り組む。 ・友達と思いを出し合って遊びながら、みんなで取り組む喜びを味わう。 ・5歳児になる期待と喜びをもって意欲的に生活する。
経験する内容	健康	<ul style="list-style-type: none"> ・健康で安全な生活を送るために必要なことが分かり、進んでしようとする。 ・戸外で全身を思い切り動かし、みんなと一緒に遊ぶ楽しさを味わう。
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のもの、みんなのものに思いを寄せ大切にする。 ・3歳児との交流や5歳児からの仕事の引継ぎなどを通して、進級への期待を膨らませる。 ・友達と思いを出し合ったり、ぶつけ合ったりしながら友達の気持ちに気づき、一緒に遊びを進めようとする。
	環境	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスで取り組む活動を通して、仲間としてのつながりを感じていく。 ・友達の刺激を受けながら自分なりの遊び方を工夫し、繰り返し楽しむ。 ・冬野菜の収穫や春に向けての苗植えを楽しみ、匂いや味など五感を通して食物にふれたり、関心をもって食べたりする。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・冬の自然現象や季節の変化に興味関心をもち、発見したり不思議さを感じたりする。 ・伝統行事に参加するなど、季節感のある生活を楽しむ。 ・生活や遊びを通して、文字、色、数、形などに関心をもつ。
	表現	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びに必要な遊具や用具を、自分たちで考えてつくり、大切に使う。 ・絵本や物語などを通してイメージを膨らませながら、動きや言葉や歌、かいたりつくったりしたもので表現する。

<保育のポイント>

- ☆一人一人の気持ちの動きを理解して受容し、5歳児になることへの期待につなげながら、意欲的に過ごせるようにする。
- 次の活動や明日への期待から、自分自身で見通しをもつことを大切にし、子どもの気づきや「こんなふうにやってみよう」という考えに保育者も共感する。
- ☆●自分の役割を果たすことの手応えを感じたり、友達から認められたりすることで自己肯定感を高める。
- ☆●「～だから、～になった」「～だけど、～したい」など、二つのことを一つにまとめ上げて考えていく力が育ってくる時期なので、自己決定する時間や機会を大切にする。
- ☆●自分たちの成長を感じ、進級に期待をもてるよう、5歳児の当番活動や生活などを見たり、体験したりする機会をもつ。
- 季節感のある生活を楽しみ、冬ならではの自然（霜・雪・氷など）や伝統行事を保育に生かす。

<家庭との連携>

- ・伝承遊びが家庭につながっていくよう、保護者も一緒に遊ぶ機会をつくる。
- ・発表会などの機会を通して、個や集団の一年間の育ちを具体的に伝える。
- ・進級に向けての取組を知らせ、進級することを親子で楽しみにできるようにする。

お年寄りとのふれ合い体験でぶんぶんゴマを取り入れたところ、「こうやって回すの?」「ちょっとだけ回った」と手応えを感じた子どもたち。その後も、指に糸を掛けて「もっと、もっと回さない!」「びゅん、びゅんって聞こえてくるね」と一人の子どもから二人へ、そして周りにはいる子どもたちへと遊びが広がっていきました。数日すると「こんなこともできたよ」と言いながら足の指に糸を掛けて回す子どもも出てきました。

【健康】

【自分のもの、みんなのものに思いを寄せ大切にする】

自分でつくったぶんぶんゴマは世界でたった一つの大変なゴマ。自分のものを大切にしているからこそ、友達のものも大切にできるようになります。どこに置いておくといいかなど片付け方にも工夫が見られます。

【人間関係】

【クラスで取り組む活動を通して、仲間としてのつながりを感じていく】

クラスみんなと一緒に「面白そう!」と感じた、ぶんぶんゴマ。興味をもった体験を共有していることで、一緒に夢中になっている友達に、仲間としてのつながりを感じます。

【環境】

【友達の刺激を受けながら、自分なりの遊び方を工夫し、繰り返し楽しむ】

一人の発見がクラスみんなへ広がりを見せる時期です。自分で発見したことだからこそ、友達にその感動が伝わります。自分で考えたことがクラスの中で認められることで、繰り返し試したり工夫したりする楽しさをより味わうことができます。



【言葉】

【生活や遊びを通して、文字、色、数、形などに興味をもつ】

ゴマが回るときの色の変化に気付き、何度も色を塗り直していました。

生活や遊びの具体的な体験を通して、数・量・形・色などの数量的、色彩的な感覚が養われていきます。

【表現】

【遊びに必要な道具や用具を、自分たちで考えてつくり、大切に扱う】

子ども同士が刺激を受け合い、認め合いの中からそのクラスならではの遊びが生まれます。もっとよく回るようにしようと、形や大きさなどを工夫して、自分たちでつくる楽しさを感じています。

【このコラムにおける保育のポイント】

- 友達の発見や驚きに共感したり、よさを認め合ったりできる関係を大切にしながら、仲間と一緒に取り組む楽しさが味わえるようにしたいものです。
- 自分の思いを話したり、友達の話を聞いたりする機会を捉えて互いの考えを伝え合うことを大切にします。その中で友達の思いを感じられるように援助することが大切です。

